

## 昭和31年の「三商新聞60号」を拝読して

29期 仲田 元昭

令和6年4月、当時生徒会役員をされていた25期田中国秀先輩より、同先輩が投稿されていた三商新聞や図書館報等を入手しましたので概要をご紹介します。当時の思い出になれば幸いです。

はじめて先輩の三商新聞60号を拝読し、当時立派な新聞を編集していたと感心しました。

三商新聞は、昭和23年に「府三商」を「三商新聞」に復刊し、昭和31年12月60号の記念の発行となりました。戦後は印刷する紙を入手するのに苦労された由で、年8号もの発行は、取材と編集に大変なご苦労があったと拝察します。

井沢 信治学校長から「三商新聞への期待：三商新聞を一つの手がかりとして正しい歩みが続けて、美しい伝統の塊の形成者なることを念願する。」とのお言葉が記されていました。

新聞部顧問の中川先生からは、伝統であろう「割付けがうまい」と新聞協会の合評会でも批評されているが、更なる充実のため

- ① 記事内容に歴史性を持たせる、学芸欄の充実を。(学芸欄は2か月後61号でスタート、迅速な対応の当時の三商生)
- ② 客観性・真実の報道を、現実を的確に把握する力を養うこと。解決は総合的学力を身に着ける以外ない。勉強ということだ。
- ③ 解説時論記事、もう少し充実を。
- ④ 取材活動の有機的な結合を強く望む等、一般新聞を目指すご指導をされていました。

「9割が就職決定」求人数1,801人、会社数430社、普通高校1~2割に比べ。

「営利主義の模擬店」の記事はさすが三商生、個別原価計算で正確に検証。今の裏金問題とは異なり、会計原則に忠実で正確な原価計算でした。三商生全国大会で「暗算日本一」。

1年生の意見に、当時の沖縄問題として「現地の高校生の手記を通して」現状を訴えた記事のように、学校内の記事だけでなく解説時論記事の掲載も希望する等、当時の三商生の幅広い知識習得への熱意と積極性が感じ取れました。

生徒会やクラブ活動への関心を、より多くの三商生に持って頂くための施策（ホームルーム交換実施等）が、真剣に検討され実行されていたことが読み取れる内容でした。

当時の三商生は、更なるより良き伝統を築き上げていく、そして三商3年間の生活を有意義なものにしようと、懸命に取り組んでいる様子が報道されていました。昭和40年の三商新聞と比較すると世代変化がわかると思います。

尚昭和31年、32年の三商新聞（60号、61号、64号、選挙特報）、生徒会役員名簿、図書館報、学校便覧の貴重な資料を入手しましたので、同窓会へ寄贈し、HPの同窓会・学校情報の三商アーカイブ欄に掲載方事務局にお願いしました。是非一度ご覧頂ければ幸いです。

(令和6年7月1日寄稿)

